

2022年7月17日(日)／説教者：國分美生

説教：「ひとりの大切さ」

聖書：ルカによる福音書8：26～39

本日の箇所は、イエスが悪霊に取りつかれて、墓場を住みかとしている男と出会われたお話です。この物語からイエスがどんなに小さな一人でも、本当に大切にされたことがわかります。男は長い間、裸で、墓場を住まいとしており、周囲の人たちが、鎖と足かせで縛り上げ、監視していました。かれは人間性を全く否定された絶望の中で生きていた…重い病を負い、周囲から疎外され、差別の中に打ち捨てられている人物でした。

イエスはこの人に向き合い、汚れた霊に、この人から出ていようお命じになりました。「レギオン」というのはローマの軍隊を表す単語。一つの軍団には 6000 人ほどの兵士がいたといえますから、この悪霊に苦しめられていた人の苦しみがどれほど重いものであったかが伝わります。イエスがお許しになったので、悪霊が入り込んだ豚の群れは崖を下って湖へなだれ込み、おぼれ果てました。こうして、イエスと出会ったこの男性は絶望的状态の中から救い出されました。悪霊から解放されたこの男性にとっては、この体験は喜ばしいものですが、一方、ゲラサの地の人々は恐れて、イエスにここから出ていよう願います。人というものは、たとえ良いことであっても、これまでと全く違う状態、違う習慣を受け入れることが難しいものなのだ、改めて思われます。

イエスに悪霊を去らせていただいた男性は、イエスと一緒にいさせてくれるように懇願しますが、イエスはこの男性に帰るように言います。「あなたの家に戻り、神があなたにどれほどのことをしてくださったかを語りなさい」イエスはこの者を、彼の共同体の中で神を証しし、宣べ伝える役割を託されたのでした。

神は、人間一人一人と丁寧に向き合うためにイエス・キリストとなってこの世に来られました。神は差別に苦しむ人間をご自分の事柄としてとりあげられました。すべての人は、人間らしく生きる権利と可能性を神から与えられています。この世のどんなものも、またどんな権力も奪うことは許されません。それは神のみ旨です。ですが今私たちの住んでいるこの世界に、たくさん差別も暴力もあります。神が私たち自身も含めてつくられたすべての者を大切に、愛を注いでくださっていることを覚えることで、私たちは、この社会で人権が守られるために、常に目を覚まして、祈り、行動していく者とされていきます。(國分美生)